別記第３　時間インターリーブの長さと遅延補正量

⑴　標準テレビジョン放送等のうちデジタル放送に関する送信の標準方式（平成23年総務省令第87号。以下「標準方式」という。）第２章に規定するデジタル放送の場合

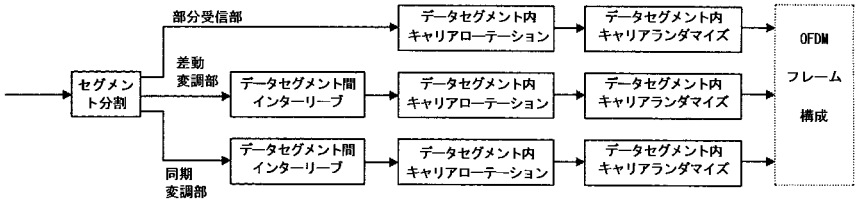
Mode 1			Mode 2			Mode 3		
長さ（Ｉ）	遅延補正シンボル数	送受遅延フレーム数	長さ（Ｉ）	遅延補正シンボル数	送受遅延フレーム数	長さ（Ｉ）	遅延補正シンボル数	送受遅延フレーム数
0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	28	2	2	14	1	1	109	1
8	56	4	4	28	2	2	14	1
16	112	8	8	56	4	4	28	2
32	224	16	16	112	8	8	56	4

⑵　標準方式第３章に規定するデジタル放送の場合

Mode 1			Mode 2			Mode 3		
長さ（Ｉ）	遅延補正シンボル数	送受遅延フレーム数	長さ（Ｉ）	遅延補正シンボル数	送受遅延フレーム数	長さ（Ｉ）	遅延補正シンボル数	送受遅延フレーム数
0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	28	2	2	14	1	1	109	1
8	56	4	4	28	2	2	14	1
16	112	8	8	56	4	4	28	2

注　送信側に各階層で遅延補正シンボル数の遅延を設けることにより、時間インターリーブによる送受の遅延量がフレームの整数倍となるように設定する。

別記第４　周波数インターリーブの構成



注１　標準方式第２章に規定されるデジタル放送については、１セグメント形式のＯＦＤＭフレームにおいては当該セグメントを部分受信部に、３セグメント形式のＯＦＤＭフレームにおいてはセグメント番号０を部分受信部に、セグメント番号１及び２を差動変調部又は同期変調部に割り当てる。

２　標準方式第３章に規定されるデジタル放送については、セグメント分割が行われる場合には、部分受信部、差動変調部、同期変調部の順に、セグメント番号０から12までを割り当てる。

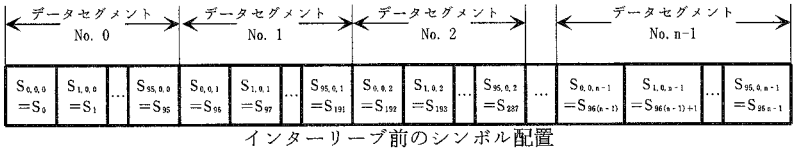
３　別記第５により、差動変調部及び同期変調部についてそれぞれセグメント間インターリーブを行う。

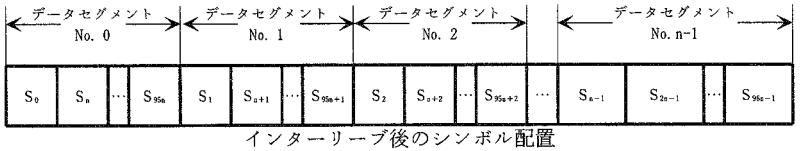
４　別記第６により、各データセグメントごとにデータセグメント内キャリアローテーションを行う。

５　別記第７により、各データセグメントごとにデータセグメント内キャリアランダマイズを行う。

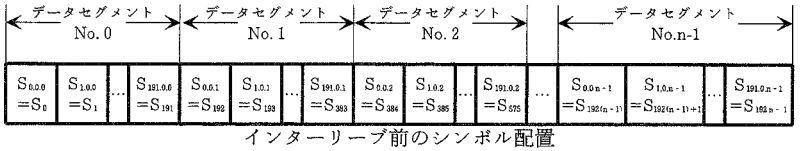
別記第５　データセグメント間インターリーブ

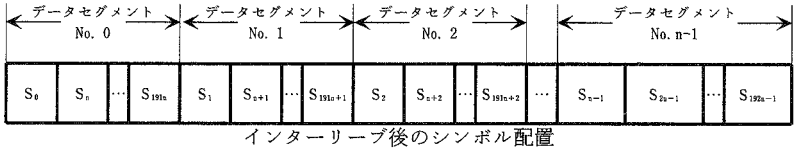
⑴　モード１のデータセグメント間インターリーブ



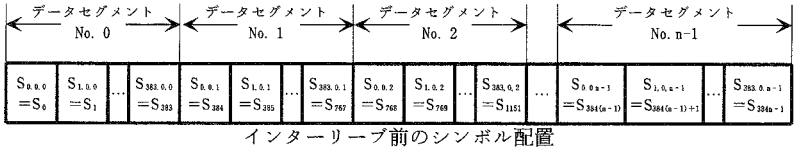


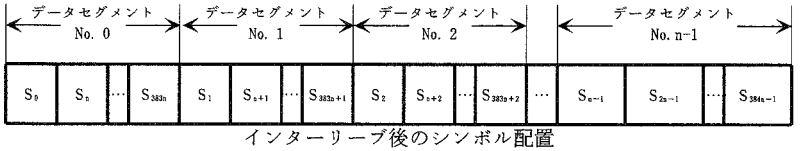
⑵　モード２のデータセグメント間インターリーブ





⑶　モード３のデータセグメント間インターリーブ





注１　Si, j, kはデータセグメントを構成する伝送主シンボルとし、ｉはデータセグメント内のキャリア番号、ｊはシンボル番号、ｋはセグメント番号を示すものとする。

２　ｎは、差動変調部又は同期変調部に割り当てられたセグメント数を示すものとする。